

共に生きる ～未来に生きる～ われら地球家族 アートマイルプロジェクトに参加して

総合的な学習の時間 第6学年
金沢市立三馬小学校・教諭

1 事例の概要

本校では、「多様なかかわりの中で 考え 動き出す子」をめざして、実践研究を積み重ねてきている。それは、「生きる力」を「自分らしさをベースにした考え方をもち、自分なりのやり方で課題を追究し、自分の力で試行錯誤しながら生活を切り開いていくこと」と考えているからである。また、人と人とのかかわりの中でこそ自分らしさに気づき、自分らしさを輝かせていくことができるという考えが根本にある。教科の中はもとより、本校の総合的な学習の時間においても様々な人たちとのかかわりの場を位置づけてきた。

本事例は、最高学年として1年生や次に続く5年生とのかかわりの場を大切にするとともに、他教科関連の学びの中で、先人の生き方から学び自分自身を見つめる場を経て、主に後期に取り組んだ外国の方々との交流からの学びを取り上げたものである。「金沢世界都市構想」のもと、取り組んでいる英語学習。その言語表現のみならず「絵」という表現を通して同じアジアの台湾の小学生と、アジアの未来はどうあったらいいのかという共通テーマで思いを伝え合う過程を大切に、1枚の大きな共同絵画を仕上げていくものである。地球家族の一員として平和で明るい未来を共に願っていることを知り、心を通わせ未来を築いていこうとする気持ちを膨らませることにつながっていった実践である。

A-1 学校研究の概要

2 実践内容

(1) 単元の目標

- ・外国の人たちと主体的に関わっていきたい活動を自分で選び、構想を描くことができるとともに、積極的にコミュニケーションしようとする態度や、主体的に調べ活動やまとめに取り組もうとする態度を養う。 (主体的な態度)
- ・調べ、交流した結果をもとに、新たな課題意識を持つことができる。 (課題発見能力)
- ・交流の過程でよりよい方法を考え、伝えることができる。 (問題解決能力)
- ・相手を理解しようとして話を聞いたり、反応を確かめながら伝わるように話をするができる。 (コミュニケーション能力)
- ・情報を的確に集め、整理することができる。 (情報活用能力)

(2) 指導上の工夫点

- ① 外国との交流経験のない児童らであったことから、前期にドイツ、後期に入ってからメキシコの方々をお迎えする機会を設定し、他国の文化にふれる学習を持つ。
- ② なぜ英語を学ぶか、また国際交流の意義やできることを知るために、交流のコーディネートや実際に交流の経験のある方を招き、「自分達も交流したい」という意欲や関心を高める。
- ③ 6学年4学級 140名の児童らが台湾の小学生と主体的な関わりを持てるよう、4つのプロジェクトを設定し、アプローチの仕方を紹介し、自己決定させる。 [↓完成した絵]
- ④ 自分が調べたり、取り組んだりしたことをシートに書き込んだり記録したりしながら、効果的な方法でプレゼンテーションし、他のプロジェクトの人たちと実践や学びを共有する。



B-1 単元計画

3 指導の実際

教師の働きかけと児童の反応		・支援と★評価
<今の地球とそこに生きる私たち よい点と問題点を出し合おう> ・日本は平和だけど戦争や紛争は地球上で今もある。 ・地球規模で環境が悪化しているよ。 ・物には恵まれているけど、心はどうか。 ・いじめ等の社会問題が浮上しているよ。 <未来はどうなっていたらいいの> ・戦争がない未来 ・みんなが笑顔でくらせたらいい ・自然が溢れている住みよい地球 ・スポーツでなら言葉が違ってても交流できるよ ・食料が豊富 ・文化発展 ・安心・・・ <海の向こうの友達はどうなことを願っているのかな>		・「地球」と問うて、自分以外に目を向けるようにする ・こんなことを願っているのはぼくらだけかな？と他国の思いを推測させる ★未来への願いを自分なりに描き、言語化できる（ワークシート）
C-1 指導案	C-2 導入プレゼン1、2	C-3 ワークシート例
C-4 実際作品		

4 成果と課題

(1) 成果

① アジアの未来についての思いを持ち、互いに尊重しながら共通理解できたこと

まず、本プロジェクトを選択した 32 名の児童一人ひとりが、ぼくたちの暮らすこのアジアの未来について熱い思いを抱かなければ前に進めない。そこで、「①今はどうなの？」「②他の〇〇の人にとってはどうだろう？」「③どうなっていたらいいの？」「④一番大事なことは？」等のコーチング的問いかけで、ウェブマップを描かせ、キーワードを出した。その後一人ひとりが描いた絵を見合いながら願いを受け止め、共通するところをまとめていくなどして、一つにしていっていった。途中、台湾の子どもたちのイメージ画をメールに添付して送ってもらい、鑑賞することで、思いや願いが一致していることに喜びを感じ、絵で通じ合えることを実感できた。

② 相手意識を持って活動ができたことが意欲の持続につながったこと

単なる平和への願いを描く活動ではなく、他国の同世代の子どもたちと共同で 1 枚の絵画に取り組むことに大きな意義があった。その過程での台湾との TV 会議ソフト (skype) を使ったやりとりや、手紙や E メールなどにより、相手を身近に意識することができた。途中絵を描いている写真を送り合うことで、意識がより高まり、最終的に台湾の日新小の校門に掲げられた完成作品を見たときには「すごい！」と感嘆の声が子どもたちからあがった。

③ 自国や金沢や自分達のことを見つめ、他国へ目が向いたこと

導入で他校のアートマイルの作品を鑑賞したときに、その国らしさが絵から読み取れたことを生かし、日本らしさ、金沢らしさを何で表現したらいいか等考える契機となった。また、台湾への関心も持ち、図書やインターネットで調べる等の主体的な姿を育めた。英語力の高さや日本への関心の高さにも驚いたり、下書きの発想が同じだったことに喜んだりもした。国が異なっても、互いの幸せを願っていることを知り、温かい気持ちになれた。

(2) 課題

台湾から完成した絵が戻ってきた時は学年末であり、ゆっくりと鑑賞することができなかったが、描いた絵は他県で、絵に込められたメッセージを考えるという研究授業の題材にも使われたので、子どもたちの思いや願いを受け止めてもらえることができたと考えている。また、アートマイルに関わった子供たちも直接 TV 会議に参加して台湾の子どもたちに思いを伝える機会を設けることができればよかったと思う。学校全体の人数 140 名に対して先方は選抜された少人数の生徒であったことが、子ども一人ひとりにとって深い交流になり得なかった原因であろう。

D-1 成果と課題(日本)

D-2 成果と課題(台湾)

5. その他

E-1 国際交流の相手

E-2 アートマイル単元計画